



## JALグループ 平成28年3月期 連結業績

2016年4月28日

第16027号

JALグループは、本日、平成28年3月期連結業績(平成27年4月1日～平成28年3月31日)について取りまとめました。詳細につきましては、別紙「平成28年3月期 決算短信(連結)」をご参照ください。

当年度の日本経済は、緩やかな回復基調が続いており、個人消費は総じて底堅い動きとなりました。海外経済については、中国をはじめとするアジア新興国などにおいて一部弱さが見られたものの、米国を中心に全般的には回復傾向にありました。他方で、当社の旅客収入に影響を与える訪日旅客数は、2015年度累計で2,135.9万人、前年対比145.6%となり大幅に増加しました。また、当社の燃料調達コスト、国際線旅客および国際線貨物収入に影響を与える原油価格は前年と比較して低水準で推移しましたが、米ドルの為替レートについては円安傾向が継続しました。

当社はこのような経済状況のもと、2015年2月18日に発表しました「JALグループ中期経営計画 ローリングプラン 2015」で掲げた目標を達成するべく、安全運航の堅持を基盤としたうえで、JALフィロソフィと部門別採算制度によって採算意識を高め、経営の効率化を図り、お客さまに最高のサービスを提供できるよう努めました。

以上の結果、当期におけるグループ連結売上高(営業収益)は1兆3,366億円(前期比0.6%減少)、営業費用は1兆1,274億円(前期比3.2%減少)となり、営業利益は2,091億円(前期比16.4%増加)、経常利益は2,092億円(前期比19.4%増加)、親会社株主に帰属する当期純利益は1,744億円(前期比17.1%増加)となりました。

### 1. JALグループ連結業績

(単位:億円)

	平成27年3月期 連結業績	平成28年3月期 連結業績	増減	前年同期比
グループ連結売上高	13,447	<b>13,366</b>	▲80	▲0.6%
(国際旅客)	(4,548)	(4,487)	▲60	▲1.3%
(国内旅客)	(4,875)	(5,012)	+137	+2.8%
(国際・国内貨物)	(845)	(776)	▲69	▲8.2%
(その他)	(3,177)	(3,089)	▲87	▲2.7%
営業費用	11,650	<b>11,274</b>	▲375	▲3.2%
営業利益	1,796	<b>2,091</b>	+295	+16.4%
(営業利益率)	(13.4%)	(15.7%)	+2.3pt	
経常利益	1,752	2,092	+339	+19.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,490	1,744	+254	+17.1%

\* 億円未満切り捨て



## 2. 連結業績の概要

### (国際旅客)

- 日本発業務需要が堅調に推移するとともに、北米、中国、東南アジア線を中心として旺盛な訪日需要を取り込んだことで、大きく旅客数を伸ばしました。
- 2015年11月30日より、成田=ダラス・フォートワース線を787-8型機の新仕様機材「JAL SKY SUITE 787」にて週間4便で開設、2016年3月20日以降、毎日運航へと増便し、共同事業パートナーであるアメリカン航空便との乗継により利便性が大幅に向上しました。また、2015年10月25日より、羽田=上海(浦東)・広州線を開設、羽田=北京線を増便し、羽田発着の中国線ネットワークを拡充しました。
- ビジネスクラスにおいては全席通路アクセスを可能にしたフルフラットシートを、エコノミークラスにおいては標準的な座席配列よりスペースにゆとりをとった「新・間隔エコノミー」を装着した「SKY SUITE(スカイスイート)」機材の導入を進めました。2016年2月にモスクワ線へ「JAL SKY SUITE 787」を投入したことにより、当社の欧州線について全路線が「JAL SKY SUITE」運航となりました。
- 2016年1月には航空会社の定時到着率などの分析を行っている米国のFlightStats社より、2015年1月～12月の国際線・国内線をあわせた運航実績について、主要航空会社部門で世界1位に認定されました。アジア・パシフィック主要航空会社部門でも1位に認定されたほか、アライアンス部門でも当社が所属するワンワールドが1位となり、4度目の三冠獲得となりました。
- 以上の結果、当期の国際線供給は有効座席キロベースで前期比1.3%の増加、需要は有償旅客キロベースで前期比5.4%の増加となり、有償座席利用率(L/F)は78.8%(前期比3.1ポイント上昇)となりました。一方燃油サーチャージ減分をカバーしきれず、国際旅客収入は4,487億円(前期比1.3%減少)となっています。

### (国内旅客)

- 路線面においては、過去に運休した地方路線のうち6路線の季節運航を今期も継続しました。また、2015年4月1日より天草エアライン株式会社とのコードシェアを天草=福岡・熊本線、熊本=伊丹線の3路線にて開始し、お客さまの利便性のさらなる向上を図り、地域経済への貢献に努めました。
- 空港サービス面では、簡単・便利・シンプルを実現すべく、「JALスマートスタイル」というコンセプトのもと、カウンターでの待ち時間を少なくし快適に手荷物をお預けいただける「JALエクスプレス・タグサービス」を羽田空港国内線カウンターにて開始し、2016年3月より、新千歳空港、伊丹空港、福岡空港、那覇空港にも拡大展開しました。
- 以上の結果、当期の国内線供給は有効座席キロベースで前期比1.2%の減少、需要は有償旅客キロベースで前期比1.5%の増加となり、有償座席利用率(L/F)は67.9%(前期比1.8ポイント上昇)、国内旅客収入は5,012億円(前期比2.8%増加)となりました。

### (国際・国内貨物)

- 国際線貨物においては、日本発着の総需要が前年を下回るなか、三国間経由貨物を効率的に取り込みました。輸送実績は有償貨物トン・キロベースで前期比1.7%の減少となり、収入は前期比10.0%減少の542億円となりました。
- 国内線貨物においては、当社の供給量は減少しましたが、積極的な販売強化を行いました。輸送実績は有償貨物トン・キロベースで前期比1.8%の増加となりましたが、収入は前期比3.8%減少の233億円となりました。



### 3. JAL グループ連結財政状況

\*億円未満切り捨て

	平成 27 年 3 月期	平成 28 年 3 月期	増減
総資産(億円)	14,733	15,789	+1,055
純資産(億円)	8,007	8,705	+698
自己資本比率(%)(注 1)	52.7	53.4	+0.7pt
オンバランス 有利子負債残高(億円)	1,005	926	▲79
D/E レシオ(注 2)	0.1x	0.1x	▲0.0

(注 1)自己資本は純資産合計から非支配株主持分を控除しています。

(注 2)D/E レシオ=オンバランス有利子負債残高÷自己資本

### 4. 配当方針および当期の配当

当社は配当金総額として、親会社株主に帰属する当期純利益から法人税等調整額の影響を除いた額の 25%程度を株主の皆さまへの配当に充てる方針としており、平成 28 年 3 月期については、1 株につき 120 円の配当を予定しています。

	期末	合計
平成 28 年 3 月期 配当金	120 円	120 円
(参考)平成 27 年 3 月期 配当金	104 円	104 円

### 5. JAL グループ連結業績予想

(単位:億円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益
平成 29 年 3 月期 通期連結業績予想	13,430	2,010	1,930	1,920

2016 年 2 月 18 日に「JAL グループ中期経営計画ローリングプラン 2016」で発表した数字からの修正はありません。

以上